

令和2年度研究デザイン 亀山市立昼生小学校

教育大綱 基本方針—1

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら なかまとともに主体的に学ぶために」

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

I. 学校教育目標

「心豊かなたくましい昼生っ子の育成」
～ともに学び、楽しさを実感できる教育の推進～

【重点目標】

- 1 基礎学力・学習習慣の定着と思考力・判断力・表現力の向上を図る。
- 2 豊かな心の育成と規範意識の醸成を図る。
- 3 保護者、地域と歩む学校づくりを進める。
- 4 教職員の働きやすい環境づくりを進める。

II. 昼生小学校研究主題

「自ら考え、伝え合い、よりよい解決を目指してともに高めていく子どもの育成」
～ 事前学習を生かした話し合い活動を通して ～

研究主題設定の理由

これまで、事前学習を生かした授業の研究を行ってきた。昨年度は、「自ら考え、伝え合い、よりよい解決を目指してともに高め合う子どもの育成」に向けた研究の2年目であり、児童一人ひとりが自分の考えをもって授業に臨む意識が定着してきている。事前学習の宿題を出すと、積極的に取り組む姿勢が見られるようになってきている。また、事前学習で取り組んできた内容について、授業前に自然と考えを交流し合う姿も見られ、児童の主体性が育ってきた。一方で、授業での話し合い活動も年々活性化しつつあるが、表現力を必要とする双方向発表で、発表者が聞き手に対して「めあてに沿った質問」があまりできていないことが課題として残った。更に、今年度からは、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、児童が「どのようにして、知識を習得するために試行錯誤しているか」を重視した授業を行っていく必要がある。そのためには、事前学習をする上で、児童一人ひとりが、授業での自分のめあてをもち、そのめあてに向かうためにはどのような学習をすればよいか、自分のめあてにどれだけ迫ることができたかを振り返る必要がある。そこで、今年度は、事前学習の研究を継続し、思考力・判断力・表現力を高めていく研究を継続して進めていくことと、児童に双方向発表を意識させる研究を進めていくこととした。

昨年度の研修の成果と課題

- 昨年度よりも事前学習に取り組もうとする児童の主体性が向上した。
- 既習を想起する姿勢が向上してきた。
- 事前学習を通して、この学習で何を学び、何を考えるのか（めあて）を意識するようになった。
- 発表では、友だちと自分の考えの相違点を考えながら聞く姿勢が向上した。
- 話し合い活動の時間を十分確保することができた。
- 事前学習に取り組んだことで、児童の思考を事前に把握することができた。
- 発表方法について、発表の仕方を考えさせたり、伝える練習をさせたりする必要がある。
- 事前学習に取り組む内容は、複数の考えが出る問題だけでなく、解法が1つでもあっても深く考える必要がある問題など、問題の選択肢を広げ事前学習を実施しやすくする必要がある。
- 発表を聞いて疑問をもった場合、直ぐに質問し解消していく対話を重視した発表にする必要がある。
- グループ交流で、何を話し合わせるかが重要であり、発表に向けての話し合いであれば、授業のめあては何かに立ち戻る必要がある。
- 自分の言葉で説明が苦手な児童に対して、個別の支援が必要である。

III. 亀山中学校区研究主題

自他を認め、ともに学び合い、高め合う児童・生徒の育成

主題設定の理由

- ・落ち着いた学習環境をつくっていくためには、中学校区である程度の学習規律の統一と徹底を図る必要がある。
- ・確かな学力が身につけていない現状から「書く力」・「読む力」・「読み取る力」の育成と学び合う、つながり合う授業を各校が作っていく必要がある。
- ・学ぶ意欲や自己肯定感・自己有用感が低い子がいる中で、なかまと関わる教育課程の工夫と授業改善が急務である。
- ・主体的、対話的で深い学びの土台となる、なかまづくりも重要な視点である。

本校の研究主題は、中学校区の研究主題に基づき、事前学習を生かした話し合い活動を通して、児童一人ひとりが自分の意見をもって話し合いながら、ともに高め合っていくことを目指し設定した。

IV. 研究主題について

(1)事前学習を研究の切り口に

- ・複数の解法が考えられる問題や、解法が1つでもじっくり考えさせたい問題を授業で扱うときに行う。
- ・本時で取り組む問題を考えさせるときは、予習型で行う。
- ・本時の問題を解く手がかりとなる既習の定着を図るときは、復習型で行う。
- ・既習を活用しつつ自力で考えさせる。
- ・問題がわからない場合、教科書を参考にしたり、指導者や家の人に聞いたりして考えさせる。
- ・どうしても問題がわからない場合、どこまでわかったのか、どこがどのようにわからないのかを明確にさせる。

(2)具体的な取り組み

授業に事前学習を生かすために

◆本時の問題の予習として取り組む場合

- ・児童に、授業で扱う問題について家庭でじっくりと考えさせ、筋道を立てながら言葉や式で書かせる。
- ・個別に応じた手立てが必要な場合は、個別のワークシートも用意する。
- ・指導者は、すべての児童が自分の考えをもっているかを授業前に把握し、授業でどのように児童の意見を取り上げるか、どのように児童同士の思考をつなげるかを考える。

◆既習の定着のために取り組む場合

- ・本時の問題に関わる既習問題に取り組ませる。
- ・指導者は、児童のつまづきを把握しておき、授業中の支援の手立てを講じたり、個別の支援を行ったりする。

ともに高め合う話し合い活動をするために

◆双方向発表 ※今年度の重点取り組み

発表者と聞き手の双方が質問し合う発表を切り口として、学習内容を焦点化し、学びを深めていくことを目指す。

- ・低学年の児童には、筋道立てた発表をさせる。
- ・中学年以上の児童には、双方向発表をさせる。
- ・発表者には、授業のめあてに沿った質問を入れさせる。
- ・聞き手には、発表内容に対して疑問に思ったことを質問させる。
- ・発表者と聞き手が質問し合い、双方の考えを理解し合っていくことで学びを一体化させていく。

◆考えの視覚化

自分の考えを視覚化することで、考えの根拠をわかりやすくし、学びの焦点化をされていていくことを目指す。

- ・ワークシート、ホワイトボード、タブレット端末などを活用させる。
- ・端末を使う場合、撮影したものを見せながら、塗りつぶす、アンダーラインをつける、写真を並べるといった機能を生かし、自分の考えをわかりやすく相手に伝えるための工夫をさせる。

児童の主体性を育てるために

◆My Goal (授業ポートフォリオ)

今年度、児童が主体的になって学習に取り組んでいくようにさせることと、児童の主体性の変容が見られるようにすることの両面から「My Goal」に取り組む。

- ・単元ごとに、「My Goal」を作成する。
- ・児童は、本時まで「できる(分かる)ようになりたいこと」「学習のしかた」を記入する。
- ・授業終了時に、「できる(分かる)ようになりたいこと」と「学習のしかた」に照らし合わせて、学習の自己評価をする。評価は「◎・○・△」で記入する。
- ・単元終了時に単元全体の振り返りを書かせる。
- ・1年生は、「できる(分かる)ようになりたいこと」の欄は指導者が記入する。「学習のしかた」の欄は、なし。ひらがな学習が終わるまで「◎・○・△」のみ記入させる。

V. 研究領域 算数科・生活単元学習

MyGoal 例 〇月 〇日～ 〇月 〇日 教科書P〇〇～P〇〇

速さの表し方を考えよう 単元

1. この単元で学習すること・・・「生活の中にある、いろいろな速さを調べよう」
2. 今まで学習したこと、これから学習すること

【5年生】単元あたりの大きさ
・平均の速さとその求め方、使い方
・単位量あたりの大きさの考え方
その他

【この単元で学習すること】
・単位量あたりの大きさの考え方を使った速さの比べ方
・速さの意味とその求め方(時間・分速・秒速)
・速さに関する公式
・既習と新しい既習(比例)
・単元の進捗

【6年生】比例と反比例
・比例と反比例の意味とその性質
・比例と反比例のグラフ
・比例、反比例

3. 自分の学習の見通しをもちましよう

時期	学習ページ	できる(分かる)ようになりたいこと	学習のしかた	◎○△
①	82～83	速さを比べる方法がわかる	きよりを公倍数でそろえて秒数を比べてみる 1秒間あたりに何m走ったかを比べてみる 1mあたりに何秒かかったかを比べてみる	◎
②	84			
③	85			
④	85～86			
⑤	87			
⑥	88			
⑦	89			
⑧	90			
⑨	91			
⑩	92			

4. 学習を振り返って
速さについて学習した。はじめは、きよりを公倍数でそろえて何秒かかったか、1秒間あたりに何m走ったか、1mあたりに何秒かかったか比べて、どれが速いかを考えた。公倍数で考えるより1秒間あたりや1mあたりの単位量あたりを使うと考えやすかった。この考えをもとにすると、公式が出てきて、速さ=道のり÷時間で計算するよということが分かった。車に乗せてもらっているとき、メーターに速度が出るので、学習したことを生かして1分間で何km走るかを考えてみたい。

VI. 指導過程

事前学習を活用した場合は、指導の流れが以下の通りになる。



事前学習を活用すると、自力解決の時間がないため、指導過程の中で話し合い活動に多くの時間が使え、「伝え合う力」や「ともに高め合う力」を養うことに重点を置くことができる。

研究構想図

